令和６年度学校評価表

府中市立上下中学校

	中期（３年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価 7月 評価	結果と課題の説明	学校関係者評価 12月 適正	意見等	改善計画 改善案
確かな学力	これからの時代に求められる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）を育むため、授業改善を推進	①「ことば探究科」で学んだことを学習・生活の基盤とする。（3／3） ②表現力を高める授業づくりを通して、学びに向かう力を育成する。（1／3） ③一人一人の意見が大切にされる「対話的な学び」の実施（2／3）	①ことば探究科の研修の充実を図り、教職員がことば探究科及び各教科・生活等で有効に活用できる。 ②カリキュラム・マネジメントによる小中・各教科・行事等のつながりを明確にし、職員全員が共通認識のもと組織的に取り組む。 ③特別支援教育の視点を大切にした教育活動を実施する。 （※令和６年度　小中一貫教育全国サミットの実施）	①「ことば探究科」の全体研修を（年２回）実施し、授業実践や生徒指導等に生かす。 ②カリキュラム・マネジメントの全体研修（年２回実施）、各教科における「表現力」の指導と評価に関する授業改善（一人１回以上）の提案 ③「クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得するように考えて提案している」等（i-check） ①～③の項目及び生徒・教職員アンケートの肯定的評価 A　達成率85%以上 B　達成率75%以上 C　達成率65%以上 D　達成率65%未満	C	①Ｔ２での関りや模擬授業等を行い、教職員全体で授業改善に取り組む姿勢が高まった。今後は、他の教科や生徒指導等にも生かすように研修を実施したい。 ②授業提案については、全国サミットに向けて、教科及び教諭に偏りがあったため、すべての教諭が行えるように、計画・実施していきたい。 ③「クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得するように考えて提案している」65.1%であった。その他のアンケート項目からも、自ら課題解決する力は身についたと実感する生徒は多いものの、他者との意見交流に関する項目では 60%台と低い。「対話的な学び」に重点を置き、取組みを継続する必要がある。	○	①「ことば探究科」での学びを見てみたい。 ②全国サミットへの関わり方が難しかったが、府中市の小中一貫教育、上下町（地域）の学校として必要性を実感できた。 学力の向上については、小中と連携を図りながら、９年間を見通して取り組みを充実させてほしい。 ③引き続き、生徒一人一人が大切にされる取り組みを進めてほしい。	①「チーム担任制」により、学年部及び教職員全体で取り組みを進める土壌づくりができた。今後は、参観日等でも発信していく。 ②全国サミットの取組を通して、学園全体で共通認識のもとカリキュラム・マネジメントによる授業改善の充実に努めることができた。 ③のアンケートの数値は71.2%と若干上がったものの、他者との意見交流に関する項目では60%台～70%台と低い。ただし、「～できるように協力した」「他者から学ぶことができた」等の項目では 80%台と高い数値を示し他者意識は持っている。今後は、行動に移す力を身につけさせる必要がある。
チーム学校	「挑戦を楽しむ」チーム学校の推進	めざす学校像・生徒像に向け，生徒・教職員・保護者・地域が主体的に活動する。（1／3）	①生徒とＣＳ委員との交流を企画し活動の推進を図る。（新たな挑戦） ②地域行事への参画、地域にある教育資源を取り入れた授業づくり。（地域と共に挑戦） ③生徒の自己肯定感の育成を図る。（可能性への挑戦）…教育活動の過程において、自ら考え、判断・選択・決定する場を設定する。	①生徒とＣＳ委員との交歓会及び合同行事を計４回以上開催し，CS 活動を推進する。 ②地域行事に４回以上参加する。各教科における、地域とつながる授業を計画・実施する。 ③「自分にはよいところがあると思う」「積極的に挑戦している」など、生徒アンケートによる肯定的な評価 ①～③の項目について A　達成率85%以上 B　達成率75%以上 C　達成率65%以上 D　達成率65%未満	B	①「花いっぱい運動」（3回）、「小中高合同清掃活動」など、上下中または上下学園の行事が伝統としてつながっている。ただ、生徒アンケート「地域及び地域の方との交流へ積極的に参加した」79.4%とやや低い数値となった。 ②「あやめ祭り」（吹奏楽）、「小中高合同清掃活動」に参加し、地域交流を行った。また、新たな取組として、府中市に協力を依頼し、ガバメントクラウドファンディング（GCF）を活用し地域活性化の授業を展開している。 ③「自分にはよいところがあると思う」81.0%、「積極的に挑戦している」87.9%、「自律が身についた」84.5%など、個々の自己肯定感が高まった。	○	①花いっぱい運動では、町並みに合わせたプランターを準備するなど、新たな考えを取り入れながら生徒とＣＳ委員が協力して行うことができた。 ②合同清掃では、高校生の参加が増え、上下学園として充実した活動となった。今後は、地域への啓発にも力を入れ、地域とのつながりを大切にした取組にしていく必要がある。 ③はぴいライブの取組は、地域の活性化につながるよい取組であった。地域に元気を与えてくれ、大変感動した。今後も新たな取組を模索して、生徒の主体的な学びを実現してほしい	①学校行事や授業への参加（体力テスト・長距離走記録会・自己表現対策）等、生徒の活躍の場を参観していただき、有意義な交流の機会となった。今後は、３年生の総合的な学習の時間の取組や生徒会を中心に交流を企画できるようにしていく。 ② GCF を活用した、上下町の活性化への取組は、地域を巻き込み一定の成果をあげたと実感している。今後は、地域行事への参加の在り方を模索していく。 ③のアンケート平均値は 83.7%であり、引き続き、自己決定の場を提供する教育活動を進める必要がある。
豊かな心と身体	ウェルビーイングの向上	【生徒】 よき生活習慣とたくましい体を育成する。（1／3） 【教職員】 ワークライフバランスの実行 …生徒に向き合う時間と自己研修に努める環境づくり。（1／3）	【生徒】 ①縦割り活動による、表現力・体力の向上を図る。 ②健康教育の充実 ③三感（感謝・感動・感受）を大切にした生徒理解 【教職員】 ①チーム担任制により、業務の偏りと負担を軽減する。 ②教職員全員が業務改善に関する提案ができる場を設定する。（経営参加）	【生徒】①②③「学校が楽しい」「心も体も健康だと思う」「三感を意識して生活している」など、生徒アンケートの肯定的評価 A　85%以上　B　75%以上 C　65%以上　D　65%未満 【教職員】①②「生徒と向き合う時間が増えた」「学校の仕事が楽しい」など、教職員アンケートの肯定的評価 A　75%以上　B　70%以上 C　65%以上　D　65%未満	B	【生徒】 ①「学校が楽しい」82.5%、「縦割り活動による表現力・体力の向上」81.9%、 ②「心も体も健康だと思う」87.3%、 ③「三感を意識して生活している」93.1%であった。 【教職員】 ①「生徒と向き合う時間が増えた」81.8%「学校の仕事が楽しい」81.8% ②「業務改善に関する提案または取組をしている」38.4%、「自己研修に努める時間が増えた」76.9%であった。チームで学校運営に関われるように工夫する。	○	【生徒】 ・体力テストや長距離走記録会等、見学だけでなく、役員として関わることで、一緒に感動を共有することができた。 【教職員】 ・「チーム担任制」については、教職員が前向きな評価をしているようなので、今年の取組を検証して、より効果的なものにしてほしい。	【生徒】①②③の平均値は84.9%であり、引き続き、生徒が主体的に取り組めるよう、生徒会執行部と体育科・音楽科で連携を図り、学校行事等を企画・運営していく。 【教職員】①②の平均値82.4% ①全教職員が「チーム担任制」により、業務の偏りと負担軽減、人材育成に効果的があると実感している。 ②「自己研修」については、92.3%が増えたと答えており、継続したい。

※自己評価　　：評価基準に則り，４段階で評価し，記入する。評価指標は各校で定めること。※学校関係者評価：○月の自己評価に対して自己評価結果が，適正である：○，適正でない：×，適正かどうかわからない：△として，記入する。
※この様式は，各校年間評価計画に則り，７月，１２月，年度末等に活用し，中間報告はHPで公開し，最終評価結果を市教育委員会に報告すること。